はじめに

早稲田大学は、学部によって試験時間や出題傾向、レベルもバラバラです。各講で、「取り上げた題材の学部」と、「それに近い傾向の学部」の詳細説明をしていますので、参考にしてください。学部によっては、古文と漢文が大問で別々にあり、独立問題となっている学部と、「早稲田特有の古漢融合文」として、一つの大問中に古文と漢文をいっしょに問う学部があるのですが、どちらにしろ（＝「古漢融合文」であれ）、実質は「古文と漢文は別物になっている場合が多い」と言えます。よって、本講座では、1～4講までを「古文」、5講を「漢文」対策として構成しています。もちろん、「早稲田特有の古漢融合文」というものが、どんなものなのかも講義中に説明しています。最初に述べたとおり、学部によって傾向やレベルも様々ではありますが、「早稲田独特の古漢融合文」に慣れるためにも、志望学部以外の古文の過去問を実施することも決して無駄にはなりません。もちろん、自分が一番行きたい学部の過去問を重点的にするべきですが、万一それが終われば、さらに傾向が近い他学部の過去問から解いていく練習も必要です。本講座で第一志望の学部の傾向をしっかり掴み、合格を手に入れるよう一緒に頑張りましょう！

＊本講座は「文法」・「読解のルール」・「句法」が理解できていることを前提に講義をしています。

予復習・授業の受け方について

各講の動画を見る前に、必ず該当講の予習をすること。予習が終われば、時間をあけずに該当講の動画を見て下さい。どうしてその解答を選んだのか、自分で根拠を覚えている間に見ることが重要です。講義を見終えたら、復習を必ずすること。間違えた問題があった場合は、「なぜ」間違えたのか、その原因になるところをきちんと潰して、次回同じような問題が出たときには必ず解けるようにしましょう。「復習問題」がありますが、授業で扱っていない問題がたくさんあるはずです。授業で扱っていないものは、その講で取り上げた学部の他年度の過去問や、詳細説明をした学部の過去問ですので、「復習問題」というよりは「チャレンジ問題」という位置づけで解いてください。もちろん解説があるので、実施後にきちんと読むこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　『浜松中納言物語』 商学部……p. 3
第二講　（出典情報なし） 法学部……p. 10
第三講　『源氏物語』 教育学部……p. 19
第四講　『たはれ草』 政治経済学部……p. 27
第五講　漢文対策……p. 36

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講『浜松中納言物語』　商学部

次の文章は『浜松中納言物語』の一節である。中納言は亡き父が唐土の皇子に転生していることを知って、唐土に渡った。これを読んで、後の問いに答えよ（**問十**は不要）。

后のおはすると、ことごとなく見れば、御年二十ばかりやおはすらむとおぼえて、御顔のやうたい、細くもあらず、ふくらにもあらず、よきほどなるが、中すこし盛りたる心地して、御色の白さは、（注）はりせらむといふとも、これにはまさらざりけむとおぼゆるに、[1]あいぎやう、いみじくにほひかをりて、眉ものよりけだかく見なし給ふに、くちびるは丹といふもの塗りたるやうに、いささかもねぢけたるところなく、あたりまでにほひて、髪上げうるはしき御さまにて、のどかにながめ出でつつ琴を弾き給ふ。この世にかかることを見るやと、あさましきまで[2]おぼゆ。

日本の人は、ただうち垂れ、額髪（ひたひがみ）も縒（よ）りかけなどしたるこそ、わがかたざまに、なつかしくなまめきたることなれと、思ひ出づるに、[3]うるはしくて、簪（かむざし）して髪上げられたるも、人がらなりければ[a]にや、[4]これこそめでたく、さまことなりけれと見るに、ものの音さへ世に知らず聞こゆるに、若き女房七、八人ばかり、天降りけむ乙女の姿かくやと見えて、菊の花もてあそび

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

つつ、(注)「蘭蕙苑(らんくゑいゑん)の嵐の」と若やかなる声合はせて誦(ずん)じたる、めづらかに聞こゆ。御簾のうちなる人々も、「この花開けて後」と口ずさび誦ずるなり。ことに男子は歌詠むめるを、女はえ詠ま[b]ぬにや、花を見ても文を誦じ合へるはと、知らまほしきに、后、御簾をおろして入り給ひぬ。［X］なかなか[c]に、半ばなる月を見る心地するに、え堪へず花のもとにあゆみ出でたるを、いたうあきれおどろきたるけしきもなし。すこし、はた隠れつつ[5]ゐたるところに、花を取りて立ち寄り給ひて、

[6]ふるさとを恋ふる心を忘るるは[7]この花見つる夕べなりけり

と、こころみに言ひかけたれば、団扇(うちは)さし出で、ただ待ち取るほど、わが世の人にことならず。

枯れでさはこの花やがてにほは[d]なむふるさと恋ふる人あるまじく

と答へたるけはひ、[8]言はぬにはあらざりけりと、をかしくおぼさる。

皇子出で給ひ[e]ぬれば、ゐなほり給ひぬ。「おもしろき夕べなり」とて、御琴ども取り出でて賜はせたる。ありつる御面影のめでたさは、名残のにほひまで、わが身にしみぬる心地して、琴の音のおもしろささへ耳につきつつ、かき立つべきかたも、[9]おぼえず。后も御簾のもとにて、つくづくと御覧ずるに、よろづめでたくすぐれたりける人かな、この人帰りなむのち、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

見ずなりfなむこそあはれなれと、人知れず涙落ちておぼされけり。

（注）
はりせらむ…前漢の成帝の后、班婕妤（はんしょうよ）のこととされる。
「蘭蕙苑（らんくゑいゑん）の嵐の」…『和漢朗詠集』に載る菅原文時の詩句。

問一　傍線部1「あいぎやう、いみじくにほひかをりて」はどのような様子を述べているか。最も適当なものを次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　たきしめた香りが部屋中に漂って魅力的な様子。
ロ　愛らしい顔が高貴で、いかにも后にふさわしい様子。
ハ　理想的な女性が可愛らしい声をあげて笑っている様子。
ニ　こぼれるばかりの魅力が照り映えるように表れている様子。
ホ　美しい女房たちの香りが混じり合い、すばらしい香りとなった様子。

問二　傍線部2「おぼゆ」、5「ゐたる」、9「おぼえず」、の主語をそれぞれ次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　后　　ロ　皇子　　ハ　中納言　　ニ　女房たち　　ホ　唐土の男性

2＝　　5＝　　9＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部3「うるはしくて」の意味として、最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　気高くて　ロ　若々しくて　ハ　輝いていて　ニ　可愛らしくて　ホ　きちんとしていて

問四　傍線部4「これ」が指すものとして、最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　琴　ロ　簪　ハ　后　ニ　女房　ホ　中納言

問五　空欄 X に入るものとして、最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　あかず　ロ　うれしく　ハ　あはれに　ニ　なつかしく　ホ　つきづきしく

問六　傍線部6「ふるさと」が具体的に指す語を本文から抜き出して記せ。

問七　傍線部7「この花」にたとえられているのは何か。最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　琴　ロ　后　ハ　団扇　ニ　皇子　ホ　女房たち

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　傍線部8「言はぬにはあらざりけり」はどういうことを述べているか。最も適当なものを次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　唐土の女性は和歌を詠むのだった。
ロ　唐土の女性は漢詩が不得意だった。
ハ　唐土の女性は口でいうほど積極的ではなかった。
ニ　唐土の女性は不吉なことを口にしないわけではなかった。
ホ　唐土の女性は声に出さず書き記すことで和歌を詠むのだった。

問九　傍線部a～fについて、文法的に正しい組み合わせを次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　a「に」とc「に」が同じ。
ロ　b「ぬ」とd「な」が同じ。
ハ　b「ぬ」とe「ぬれ」が同じ。
ニ　d「な」とf「な」が同じ。
ホ　e「ぬれ」とf「な」が同じ。

問十　二重傍線部「この花開けて後」は『和漢朗詠集』からの引用であるが、元々、唐の漢詩人元稹が作った、次の漢詩（本設問では省略）をふまえている。この漢詩を読んで、後の（1）～（3）の問いに答えよ（省略）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　復習問題

①　「つきづきし」の意味として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　仰々しく　　ロ　毎月来客があり　　ハ　しっかりとしていて

ニ　につかわしく　　ホ　こぢんまりとしており

②　「いと竹のわざ」の意味として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　裁縫の技術　　ロ　竹細工を作る技術　　ハ　造園の技術

ニ　竹刀を使っての剣術　　ホ　笛や三味線の演奏技術

③　次の和歌Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの三首中に見出される全ての活用形の活用語のうち、未然形はいくつあるか。次の中から一つ選べ。

Ⅰ　よもすがら契りし事を忘れずは恋ひむ涙の色ぞゆかしき

Ⅱ　朝倉やきの丸殿に入りながら君に知られで帰るかなしさ

Ⅲ　朝倉やただいたづらに帰すにも釣りする海人の音をのみぞ泣く

イ　なし　　ロ　一つ　　ハ　二つ　　ニ　三つ　　ホ　四つ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「いよいよわするる事なくて、…」の傍線部と文法上同じ働きのものを、次の中から一つ選べ。

イ　草といへるは、むかし…
ロ　親うせにけるのち、…
ハ　生きたる親などに…
ニ　心におぼゆる事は…
ホ　草とは書けるなり。

⑤「末の世にも、集などにも入りなむ」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　係助詞
ロ　終助詞
ハ　動詞の一部＋推量の助動詞
ニ　強意の助動詞＋推量の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　法学部

次の文章を読んで、あとの問に答えよ（**問八**は不要）。

かくて月日もはかなく過ぎて、春にもなりぬ。世の中ものどかなる様なれば、和歌所の人々（注1）、少々参り合はれたりしかば、「今は世の花も、盛り過ぎぬらむ」と、「大内（注2）の花、散らぬさきに」と、やがて引き連れて、車二両に込み乗りてまかれり。もとより群れゐたる大徳、或は由ばめる女房も、多くさまよひありく。[1]この人々と見て、いかでか心遣ひもせざらむ。うなづきささめきて、歌どもこなたかなたより持て集ふ。御階の程に円居して、連歌などし侍りて、やがておのおの歌を詠む。花一枝折りて、歌を置く。

中将定家の詠まれたりし、

[2]年を経てみゆきに慣れし花の蔭ふりゆく身をもあはれとや思ふ

はらからに法橋最栄、いざなひ具せられて侍りし、

梢にはなほ大内の山桜風もあだには思はざりけり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「これらは良し」など、その座の人々申し合へりしかば、取り分きて記し侍るなり。

さて帰りなむとするに、女房のさしよりて、「花一枝折りて給へ。知らぬ人をば御所守の諌め侍り」と申すは、中原宗安申しかけし、

　　折れと言はばいともかしこし桜花飽かぬ匂ひを袖に[a]任せよ

返しも侍りしを、忘れにし口惜しさよ。弥生の十日余りの月はなやかに差し出でて、まかり帰る。「[3]たつ事やすき」と誰も誰も思へるに、かごとがましきまで、花はこぼれ落つ。月花門のほとりに、笙の笛を吹き鳴らしたりしかば、笛を取り出でて吹き合はす。少将雅経の篳篥吹き置く。唱歌して、建春門より出でて、待賢門よりおのがじし名残惜しみてまかり帰りにき。かく花見に引き連れてまかりぬるよしを聞こしめして、夜更くる程に帰り参りたりしかば、[b]召し寄せて、「誰れ誰れか、心とまる歌詠めりつる」など、問はせ給ふ。この中将の「みゆきに慣れし」と詠めりつる歌を語り申す。「誘はれざりけるこそ、口惜し［A］」とて、笑はせ給ふ。「うらやまし。明日行きて、ご覧ず［B］」と仰せあれば、さもまかりぬべききはの人々に、夢見せに遣はす。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

次の日の午の時ばかり、御幸あり。忍びて仰せありつれど、こなたかなたより、馬・車多く行き違ふは、追ひ追ひ人々の参るなるべし。げに、「軽軒[x]九陌の塵に馳す」と思ひ出づ。待賢門より入らせ給ふ。心もとなげにおぼしめし至れば、置路も遙かなる心地して、沓の声々もいそがはし。御幸なるを見て、もとより女房ども逃げ騒ぎあへるを、「とどめよ」と仰せあれば、まかりて言ひ掛く。「花ならばしばし［C］散りそ木の下を」、口に任せて指し事に[c]申したりしかば、「言はではありと効や無からむ」と言ひて、山吹を持たりしを[d]賜びたりし。

さて花下に人々近く召し寄せて、「むげに残り少なくなりにけり」とて、御硯・紙など召し寄す。各々歌つかまつるべきよし仰せあれば、人々に紙ども分かち賜ぶ。花一枝折りて、文台にして、各々歌を置く。其のたびの御製、

天つ風しばし吹き閉じよ花桜雪と散りまがふ雲の通ひ路

かへらせ給ひしに、散りたる花を御硯の蓋に掻き集めて、摂政殿（注3）へ[e]参らせさせ給ひしに添へられたりし、

今日だにも庭を盛りとうつる花消えずはありとも雪とかも見よ

この花を持たせて、三条坊門に渡らせ給ひしかば、参る。「ただ今、御院参」とて、御前・御随身、庭に並み立ちて侍りしを、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

[4]分け参りてこのよしを仲資朝臣もて啓し侍りしかば、出でさせ給ひて、御てづから取らせ給ふ。御返し、

　　誘はれぬ人の為とや残りけむ明日より先の花の白雪

とぞ、聞き侍りし。

（注1）和歌所の人々…後鳥羽院の命で、当時『新古今集』を編纂していた歌人たち。この文章の筆者である源家長も、その一人である。

（注2）大内…平安宮の内裏。花の名所。

（注3）摂政殿…藤原良経

問一　傍線部1「この人々と見て、いかでか心遣ひもせざらむ」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　旧知の僧や女房たちが来ているのを見て、どうして何もせずにいられようか。

イ　花見に僧や女房たちが来ているのがわかって、どうして知らぬふりをしようか。

ウ　僧や女房たちと一緒に花を見て、どうして互いに気をつかわないことがあろうか。

エ　和歌所の歌人たちとわかって、どうして気持ちの準備をしないことがあろうか。

オ　新たに和歌所の人々が加わったので、どうして交遊しないことがあろうか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部２「年を経てみゆきに慣れし花の蔭ふりゆく身をもあはれとや思ふ」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　何年もみゆきにお供をすることはなかったが、かつて見慣れた花に久しぶりに会って、それをあはれと思わないことがあろうか。

イ　久しぶりにみゆきのお供をしたのだが、見慣れていた花が、すっかり老いた私のことをあはれと思ってくれたことだよ。

ウ　幾年もみゆきをお迎えしている花よ、私もそのお供をして立ち慣れた花の蔭であるが、このまま老いていく私のことを、気の毒に思ってくれるか。

エ　数年前にみゆきがあって以来、顔なじみのこの花の蔭に立つのは久しぶりだが、花びらが雪のように降りかかるのを、気の毒に思っているだろうか。

オ　何年にもわたって毎年、みゆきの折には宮中の人々をお迎えするのに慣れた花よ、花びらが花蔭に雪のように散るのを、残念に思わないことがあろうか。

問三　空欄Ａ・Ｂに入る最も適切な語を、それぞれ次の中から一つ選べ。

ア　からむ　　イ　らむ　　ウ　けれ　　エ　なむ　　オ　べし

Ａ＝　　　　Ｂ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部a・b・c・d・eは、それぞれ主語は誰か。最も適切な組み合わせを、次の中から一つ選べ。

ア　a―宗安　b―家長　c―定家　d―女房　e―歌人たち
イ　a―女房　b―後鳥羽院　c―家長　d―女房　e―後鳥羽院
ウ　a―女房　b―後鳥羽院　c―女房　d―後鳥羽院　e―歌人たち
エ　a―宗安　b―後鳥羽院　c―家長　d―歌人たち　e―家長
オ　a―女房　b―摂政殿　c―女房　d―後鳥羽院　e―歌人たち

問五　傍線部３「たつ事やすき」とは、ある古歌の一部であり、ここではその古歌をさしている。その古歌として、文脈上最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　今日のみと春を思はぬ時だにもたつ事やすき花のかげかは
イ　あしがものおりゐる池の水波のたつ事やすき我が名なりけり
ウ　吹く風にたつ事やすきあだなみもあさきうらにはよするものかは
エ　花ならぬならの木かげもなつくればたつ事やすき夕まぐれかは
オ　ちりはてて花のかげなき木のもとにたつ事やすきなつごろもかな

問六　空欄Ｃには、ひらがな一字が入る。最も適切な語を記せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部４「分け参りてこのよしを仲資朝臣もて啓し侍りしかば、出でさせ給ひて、御てづから取らせ給ふ」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　随身が人々をかきわけて参り、これを仲資朝臣が持ってきて後鳥羽院に献上したところ、院が出ていらっしゃって、ご自身でお取りになった。

イ　摂政殿が後鳥羽院に参られて、仲資朝臣を介して院にお礼を申し上げたところ、院が出ていらっしゃって、摂政殿のお返事をご自身でお取りになった。

ウ　私（家長）は仲資朝臣を連れて、人々をかき分けて摂政殿にこのことをお知らせしたところ、すでに後鳥羽院のところへお出になっていて、ご自身でお取りになっていた。

エ　摂政殿が、後鳥羽院の御前の人々の間を通って参り、仲資朝臣が摂政殿にこの歌を献上した時、院が出ていらっしゃって、摂政殿の返歌をご自身でお取りになった。

オ　私（家長）は人々をかき分けて参上し、仲資朝臣を介して摂政殿にこのことを申し上げたところ、摂政殿が出ていらっしゃって、ご自身でお取りになった。

問八　傍線部Ｘ「九陌の塵」は、都の喧噪や都市の生活を象徴する語である。都の生活をテーマに詠じた次の南宋・陸游の漢詩（本設問では省略）を読み、あとの問に答えよ（省略）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　復習問題

①『とはずがたり』よりも前に成立した作品を、次の中から一つ選べ。

イ　春雨物語　ロ　太平記　ハ　野ざらし紀行　ニ　風姿花伝　ホ　新古今和歌集

②『落窪物語』よりも前に成立した作品を、次の中から一つ選べ。

イ　菅家文草　ロ　狭衣物語　ハ　風姿花伝　ニ　無名草子

③「おほかる野辺に」は、次に示す『古今和歌集』の小野美材の和歌の第二句である。

女郎花おほかる野辺に宿りせばあやなくあだの名をや立ちなむ

この和歌を参考にして、本文中（本設問では省略）でこの句を口ずさんだ思いとして、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　女性が多い所にやってくるとは、あなたももの好きですね

ロ　女性の多い宿に泊まってこそ、物語の男君としてふさわしいでしょう。

ハ　女性が多い所に長居したら浮気者の評判が立つから、帰りましょう。

ニ　せっかく女性の多い所に来たのですから、泊めて下さい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「うち具しつつ」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　準備を整えながら　ロ　心の内を話しながら　ハ　供え物を持ちながら

ニ　連れ添いながら　ホ　ともに暮らしながら

⑤「行幸せさせたまへりし」の解釈として最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　伺わせなさった　ロ　お出かけなさった　ハ　お祈り申し上げた

ニ　お詫びさせなさった　ホ　お届けさせなさった

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講『源氏物語』　教育学部

次の文章は『源氏物語』の一節で、浮舟のもとを中将が訪れる場面である。入水後助けられた浮舟は横川の僧都の妹尼と暮らしていた。中将来訪時、妹尼は不在で、少将の尼という人物が応対した。これを読んで、後の問いに答えよ。

月さし出でてをかしきほどに、昼、文ありつる中将おはしたり。あなうたて、こはなぞ、とおぼえたまへば、奥深く入りたまふを、「さもあまりにもおはしますかな。御心ざしのほども、あはれまさるをりにこそはべるめれ。ほのかにも、[1]聞こえたまはんことも聞かせたまへ。しみつかんことのやうに思しめしたるこそ」など言ふに、いとうしろめたくおぼゆ。おはせぬよしを言へど、昼の使の、一ところなど問ひ聞きたるなるべし、いと言多く恨みて、ｉ「御声も聞きはべらじ。ただ、け近くて聞こえんことを、聞きにくしとも思しことわれ」と、よろづに言ひわびて、ⅱ「いと心憂く。所につけてこそ、もののあはれもまされ。あまり[2]かかるは」などあはめつつ、

Ａ「山里の秋の夜ふかきあはれをもの思ふ人は思ひこそ知れ

おのづから御心も通ひ[ア]ぬべきを」などあれば、ⅲ「尼君おはせで、紛らはしきこゆべき人もはべらず、いと世づかぬやうならむ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

と責むれば、

　Ｂ　うきものと思ひも知らですぐす身をもの思ふ人と人は知りけり

わざと言ふともなきを、聞きて伝へきこゆれば、いとあはれと思ひて、ⅳ「なほ、ただ、いささか出でたまへと聞こえ動かせ」と、この人々をわりなきまで恨みたまふ。ⅴ「あやしきまで、つれなくぞ見えたまふや」とて、入りて見れば、例はかりそめにもさしのぞきたまはぬ老人の御方に入りたまひィにけり。あさましう思ひて、かくなん[3]、と聞こゆれば、「かかる所にながめたまふ C 心の中のあはれに、おほかたのありさまなども情なかるまじき人の[4]、いとあまり思ひ知らぬ人よりもけにもてなしたまふめるこそ。それももの懲(ご)りしたまへるか。なほ、いかなるさまに世を恨みて、いつまでおはすべき人ぞ」などありさま問ひて、いとゆかしげにのみ思(おぼ)いたれど、こまかなることは、いかでかは言ひ聞かせん、ただ、「知りきこえたまふべき人の、年ごろはうとうとしきやうにて過ぐしたまひしを、初瀬に詣であひたまひて、尋ねきこえたまへる」とぞ言ふ。

　姫君は、いとむつかしとのみ聞く老人のあたりにうつぶし臥して、寝(い)も寝られず。宵まどひは、えもいはずおどろおどろしきいびきしつつ、前にも、うちすがひたる尼ども二人臥して、劣らじといびきあはせたり。いと恐ろしう、今宵この人々にや食

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

はれ[ウ]なんと思ふも、惜しからぬ身なれど、例の心弱さは、一つ橋危がりて帰り来たり[D]者のやうに、わびしくおぼゆ。[注]こもき、供に率ておはしつれど、色めきて、このめづらしき男の艶だちゐたまへる方に帰り往[エ]にけり。今や来る、今や来ると待ちゐたまへれど、いとはかなき頼もし人なりや。

中将、言ひわづらひて帰り[オ]にければ、「いと情なく、埋もれてもおはしますかな。[5]あたら御容貌（かたち）を」など譏（そし）りて、みな一所に寝ぬ。

注
こもき……女童の名前。

問一　傍線部1「聞こえたまはんことも聞かせたまへ」を、それぞれの動作の主語を明示して現代語訳せよ。

問二　会話文ⅰ～ⅴの中で、少将の尼が主体として話しているものはどれか。次のア～オの中から一つ選べ。

ア　ⅰとⅲ　　イ　ⅱとⅳ　　ウ　ⅲとⅴ　　エ　ⅰとⅱとⅲ　　オ　ⅱとⅲとⅴ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部２「かかる」の意味として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　浮舟のすげない態度に中将が恨みを言いすぎること
イ　中将の思いを浮舟がまったく聞こうともしないこと
ウ　浮舟がひとりにされてあまりに心細そうにしていること
エ　初対面の浮舟に対して中将があまりに深く思いすぎること
オ　秋の夜といい山里といい、時も所も風情がありすぎること

問四　Bの歌「うきものと思ひも知らですぐす身をもの思ふ人と人は知りけり」は、Aの歌「山里の秋の夜ふかきあはれをももの思ふ人は思ひこそ知れ」に対してのどんな返答になっているか。最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　Aでお互いに「もの思ふ人」だと決めつけていることに対して、私のことを悩みのある人だとよく知っていますねと切り返した。
イ　Aが恋の悩みで秋の情趣も解さないと責めたのに対して、もののあはれを知っている「もの思ふ人」だと言ったのはあなただと切り返した。
ウ　Aが「もの思ふ人」はもののあはれを知っていると言ったのを、言われてみるとたしかにそうで、私の心の内をよく知ってくれていると共感した。
エ　Aで秋の夜の風情があはれだと言っているのに共感して、普段はあまり風情を解しない私も今日はことさら「もの思ふ人」になっていると応じた。
オ　Aが「山里の秋の夜ふかきあはれ」とこの場所の今の様子を決めつけているのに対して、そんな「うきもの」だとは思ってみなかったと切り返した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　二重傍線部ア〜オの中に、一つだけ文法的に異なるものがある。その記号を一つ選べ。

問六　傍線部３「かくなん」が具体的に指している部分を抜き出し、その初めと終わりの三文字を記せ（句読点は含まない）。

初め＝　　　　終わり＝

問七　空欄Ｃ、Ｄには助動詞「らむ」または「けむ」が入る。それぞれに合う助動詞を適切な形にして記せ。

Ｃ＝　　　　Ｄ＝

問八　傍線部４「おほかたのありさまなども情なかるまじき人の、いとあまり思ひ知らぬ人よりもけにもてなしたまふめるこそ」はどのようなことを述べているか。最も適切なものを、次のア〜オの中から一つ選べ。

ア　情緒過多に思える人が非情な人よりも優しく接してくれるのは当然のことだということ。
イ　冷淡な様子の人が恋の情趣を解する人よりもほんとうは熱い思いを秘めているということ。
ウ　情を解するように見える人が解さない人よりもひどい応対をするのは理解に苦しむということ。
エ　優しそうな人が引っ込み思案な人よりも隠れて出てこないのは気分を害しているためだということ。
オ　教養がありそうな人が無教養な人よりも思わせぶりな態度をとるのはかえって興ざめだということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　傍線部５「あたら御容貌を」に込められた尼の気持ちとして、最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　せっかく美しい顔立ちをしているのに、話ができないのではこのまま山里に埋もれてしまうと非難している。
イ　美しい顔立ちをしているために、わざわざ訪れた人にもすげない態度を取ってしまうのだと惜しいと思っている。
ウ　言い寄られても、ただ嫌がっているだけでは、こんなに美しい顔も台無しの顔になってしまうとたしなめている。
エ　せっかく美しい顔立ちをしているのに、あっさりと帰ってしまうなんて思いを埋もれさせるだけだと残念がっている。
オ　あまりに美しい顔立ちをしているだけに、人並みの対応ができないでいることが目立ってしまうと情けなく思っている。

問十　本文と合致する内容として、最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　老人達は中将に関心を抱いていたため、わざと浮舟を恐がらせるような行動を繰り返した。
イ　中将に思いを寄せていた女童は、浮舟に嫉妬して、自分が浮舟よりも艶っぽい女性であるように振る舞った。
ウ　中将は心優しい理想的な人物で、浮舟に同情し、この醜悪な環境から早く救ってあげたいと強く望んでいた。
エ　中将は浮舟に好意を持ち、彼女のことを少将の尼に尋ねたが、はぐらかされるような答えしか得られなかった。
オ　浮舟は内心中将に心惹かれながらも、過去の不幸な経験によって男性への不信感をぬぐえずわざと拒絶する態度に出た。

© RECRUIT HOLDINGS

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　復習問題

① 「かしこにはしはべるなる」の傍線部と文法的に同じ意味の「なる」「なり」を含む和歌を、次の中から一つ選べ。

イ　厚氷くだきし跡の見ゆるなり山下清水くむ人やたれ
ロ　世の中のあはれなるには大空の雲も涙を惜しまざりけり
ハ　嘆けとて月やはものを思はするかこち顔なる我が涙かな
ニ　世にふれば又もこえけり鈴鹿山昔の今になるにやあるらん
ホ　あしびきの片山きぎすうちはぶき妻ごひすなり春のあけぼの

② X（本設問では省略）には「もったいない、惜しい」の意味の語が入る。X に入るものとして最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

イ　うたてしく　　ロ　ゆゆしく　　ハ　おほけなく
ニ　いたはしく　　ホ　あたらしく

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　次の文章を読んで、あとの**問**に答えよ。

保胤が日本往生極楽記を著はしたのは、此の六条の池亭に在つたときであらうと思はれる。（中略）天元五年の冬、其家は成り、其記は作られたが…。（以下略）

注　天元五年…九八二年。

問『日本往生極楽記』とほぼ同時期に成立した作品を、次の中から一つ選べ。

イ　懐風藻　　ロ　保元物語　　ハ　宇治拾遺物語　　ニ　三宝絵　　ホ　古今和歌集

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講『たはれ草』　政治経済学部

次の文章は、雨森芳洲の『たはれ草』に収められた随筆文である。読んで、あとの問いに答えよ（なお、途中省略した箇所がある）。

もろこしの詩、この国の歌、深奥なる事変はりはあるまじ。詩は作りよけれど、歌は詠みがたしといへる人あり。これはさる事あるべし。歌はこの国の言葉なれば、かく詠みては歌にはあらぬといふ事、詠める者も、また見る者もそのおぼえあれど、詩はもろこしの言葉なれば、そこそこに作りてもおほかた聞こゆるほどなれば、その身もよしと思ひ、見る人も妙（たへ）なりとほめはやすより、歌は詠みがたし、詩は作りやすきといふなり。もしもろこし人、この国の歌詠む事あらば、歌は詠みやすけれど、詩は作りがたしといふべし。詩は作りやすきといへるは、詩を知らぬ人の言葉、歌を詠みやすきといへるは、歌を知らぬ人の言葉なるべし。いづれかたやすき事ならむや。文作る事も、またこれに同じ。

この国に仮名といふものなくば、人々<u>A文字を知るべきに</u>といへる人あり。これ思はざるの言葉なるべし。もろこしの文字、西域の梵字、韓国（から）の諺文（おんもん）、この国の仮名、そのほか韃靼（だったん）、おらんだの文字、みなみなその国の言葉に応じ、誰始むともなく、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

女童、下々までこれを用ゆ。まことに自然の理に出でたり。仮名といふものなくばといへるは、その国々の言葉なくばといへるに等しかるべし。

この国の詩作り、文書ける人、その才学を見れば、もろこしのたれ、それがしなどいへるに、さまで劣らじと思ふ人いかほどもあれど、言葉の違へる故にこそ、それのみにてやめ、うらめしといふべし。

もろこしの言葉知らずしては、詩作り文書くことなるまじと、もろこし言葉学べる人は必ずいへるを、もろこしの言葉知りたる人の詩文を見るに、さまで変はりたることなければと、またある人のいへる、これは皆その^B^ひとかたのみを知れる言葉なるべし。詩文は言葉の精華なるものなれば、言葉を知らずして、いかでか精華を求むべき。この国の言葉知らぬもろこし人、歌詠むといはば、^C^をかしきことと思ふなるべし。されど詩文をよくせぬもろこし人、いかほどもあれば、もろこし言葉知りたりとて、詩文をよくすべきにもあらず。まことの詩文といへるは、もろこしの言葉知りて、しかも才学すぐれたる阿倍のなにがし、釈空海などいへる人こそ、恥ぢ顔［D］。それがしももろこし言葉少し学びたれど、詩作り文書く事は知らざる故、それがしのつたなきを見て、もろこし言葉捨て給ふなと、同志の人には常に語りき。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

おほよそあらゆる文字、訓(よみ)はこの国の言葉なれど、音(こゑ)はもともろこしの音に似たるは甚だ少なし。風気の異なる故にや、橘は淮(わい)(注1)を渡りて化して枳(からたち)となるといへるを、不思議なりといひしに、この国にても蜜柑、九年母などいへるもの、その樹を移して出羽に植うれば、みな枳殻となるといへり。ちかごろある和尚の物語に、薩摩より出づる紅蜜柑といふもの、色もうるはしく、味はひも優れたれば、その種を取りて植ゑしに、ほどなく萌え出でたれど、みなみな柚(ゆず)となれりと語りき。唐音もひと伝へふた伝へ過ぎば、いつとなくこの国の音となるべし。唐音唐話を学ぶ人は、いつとてももろこし人に習ふよりほかあるまじ。黄檗(わうばく)の課誦(注2)はみなみな唐音なれど、何事ぞやと唐僧は疑へるといへり。これも数世の後には、この国の音となるべし。

もろこし音にて上より読みくだし、文義の通ずるといへる事、不審なりと思へる人ありしまま、いかにもさ思ひ給ふなるべし。されど物事馴(な)るるにこそ候へ。それがし十四歳なりし時、もろこし人に下知し給ふ文、あづまよりくだり候へど、文字の道違へる故にや、もろこし人読み重ね候ひて、訳者ども集まり、あらためて見せ候ひしと、商物(あきもの)するとて長崎に通へる稲某といへる者語りしまま、[E]げにもと思ひ、二十四歳なりし時より、もろこし音を学べり。初めはよその事聞けるがごと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

くおぼえしかど、年の数二十あまり重ねて、おほかたこの国の物読みするに近くなり、目の当たりの事は、もろこし人と物語りをもなせし。生まれつきさとく、いとけなき時より学べる人は、それがしがごとくにはあるまじ。世の逆事（さかごと）といへるもの、はじめはいひがたく、聞きがたけれど、後には常となるがごとく、また［F］不了簡などいへる、無の字不の字を先にいふは、この国の言葉にはあらねど、馴るる故にこそ思慮に及ばず、耳にも入り、口にもいへ。もろこし音学ぶも、またしかなりと知り給へと答へき。

上より読みくだして文義の通ずる事、人々よくすべきにしもあらねば、G<u>通国の法とはなしがたかるべし</u>。生まれつきを見て教ゆべきにや。韓言葉は甚だやすし。それがし韓へ行き、三年力を用ゐて、おほかたつかへなきほどに学べり。我が国に同じく反言なるが故なり。

この国に文作るといへる名ある人、経義を説きて書ける書物を韓人に見せけるに、これを見候へば、経義もさとり、または文作るの法をも知り、まことに我人の及ぶべきにもあらず、尊き書物なりといひて、朝夕喜びて読みけるが、折々いへるは、このところは文字余り、このところは文字足らずして読みがたし。これは顛倒して句読をなせし故なるべし。［H］と

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

やいふべき。惜しむべき事なりと語りき。また正徳信使(注3)の時、四六の啓札(注4)を韓人に送りし人ありしに、この人はいかが物学びして、かくまで妙なる文をば書きたるやと喜びあへりき。これらはもろこし音を学びたるにはあらねど、その才高く、しかも学いたりて、異国の人をも感ぜしむるなり。

（注）
1 「淮」…黄河と長江との間を東西に流れる中国第三の大河。華北と華南との境界と見なされる。
2 「黄檗の課誦」…黄檗宗で勤行の際に中国語音で唱えられる経文。
3 「正徳信使」…正徳元年（一七一一）秋に来訪し、翌年春帰国した朝鮮通信使。
4 「四六の啓札」…四字、六字から成る対句を連ねた、美文調の書状。

問一　傍線部A・C・Gの意味として最も適当なものを、それぞれ次のイ〜ニの中から一つ選べ。

A
イ　もっと精巧な文字が発明できたはずなのに
ロ　誰しもが文字を読み書きできたはずなのに
ハ　詩文の才能を磨くことができたはずなのに
ニ　漢字を自在に操ることができたはずなのに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

C

イ　不可思議な才能と考えるかもしれない。
ロ　風流な嗜みであると賞賛するであろう。
ハ　珍妙奇天烈なことだと不審がるはずだ。
ニ　深く情趣を解すると考えるに違いない。

G

イ　外交上の儀礼として準用することは難しい。
ロ　日本中で一般に適用するわけにもいくまい。
ハ　異国間の通商を促進する制度とも言えない。
ニ　国際的共通語として定めることもできない。

問二　傍線部Ｂ「ひとかたのみを知れる言葉なるべし」の説明として最も適当なものを、次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　中国語の力が詩文を作るのに必須というのも、そうでないとするのも、ともに不十分な見方である。
ロ　中国語が真に理解できなければ、漢詩文を作れないとする意見は、中国人の立場からの偏見である。
ハ　中国語ができなければ漢詩文をよく作ることができないとの主張には、一応もっともな理由がある。
ニ　中国語がいくら上達しても、日本人には漢詩文を作ることは不可能だとの決めつけは、誤りである。
ホ　中国語の運用能力や詩文の才能は、その人のもつ豊かな文学的資質とは、本来無関係なものである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　空欄［D］には、形容詞「すくなし」に助動詞「べし」が接続した文節が入る。文法的に正しい形を作り、すべてひらがなで記せ。

問四　傍線部E「げにも」に対応する内容の説明として最も適当なものを、次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　風土によって事物が変化していくのは当然である。
ロ　本格的に語学を学習し身につけるのが肝要である。
ハ　言葉の壁は努力によって克服しなければならない。
ニ　言語の変化は万国共通の真理と考えざるを得ない。
ホ　文法的知識よりも正しい発音の会得が大切である。

問五　空欄［F］には、すぐ後に併記される「不了簡」と意味の近い、漢字三字の語句が入る。最も適当な語句を記せ。

問六　空欄［H］に入るのに最も適切なことわざを、次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　医者の不養生　　ロ　河童の川流れ　　ハ　紺屋の白袴
ニ　玉にきず　　ホ　暖簾に腕押し

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　問題文の内容と合致するものを、次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　中国の現代語に通じることは、古典語で作られる漢詩に巧みであることを保証しない。
ロ　中国語と日本語の相違は克服できるものでなく、取り入れた発音も自然に変化した。
ハ　韓国語は日本語と極めて近い言語であるため、たいていの人が容易に習得できる。
ニ　日本人であって才能ある者は、中国人や韓国人よりずっと優れた漢詩が作れた。
ホ　中国とも韓国とも、互いに言葉を理解し合い、友誼を深めなければならない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　復習問題

①　小野僧正仁海が生存していた時代（注釈より九五四〜一〇四六年）に成立した作品を、次の中から一つ選べ。

イ　宇治拾遺物語　　ロ　源氏物語　　ハ　太平記　　ニ　とはずがたり　　ホ　日本霊異記

②　『も』の字」とは何助詞か。最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　格助詞　　ロ　間投助詞　　ハ　係助詞　　ニ　接続助詞　　ホ　副助詞

③　「いとけなし」の意味として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　かわいい　　ロ　おさない　　ハ　かしこい　　ニ　無邪気な

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　漢文対策

一

問一　次の文章を読んで、あとの**問**に答えよ。〈法〉

中秋の月は四海陰晴を同じくす、といふは東坡の説（X）なりとて、五山の僧の対州に在番せしが、いづれの年か京と陰晴ことなりしを見ていぶかしくいひたり。今年文化丙子（注1）中秋、予が郷の神辺（かんなべ）は快晴たりしに、讃州は陰（くら）かりたりとて、友人の僧義立歌をよみ示せしに、…（以下略）。

（注1）　文化丙子…文化十三（一八一六）年。

問　傍線部X「東坡の説」は、中国北宋の文人、蘇軾作の次に掲げる漢詩の中の一句「万里同陰晴」に由来するものである。

この句を含む漢詩を読んで、あとの問に答えよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

舒子在リ二汶上ニ一　閉シテレ門ヲ相ヒ対シテ清シ

鄭子向ヒ二河朔ニ一　孤舟連夜行ク

頓子雖モ二咫尺ナリト一　兀トシテ如シレ在ルガ二牢扃ニ一

趙子寄セレ書ヲ来リ　水調（注）有リ二余声一

悠ナル哉四子ノ心　共ニス二此ノ千里ノ明ヲ一

1〔明月不解老　良辰難合并〕

2〔回頭坐上人　聚散如流萍〕

嘗テ聞ク3「此ノ宵ノ」月　万里同ウスト二陰晴ヲ一

天公自カラ著意ス　此ノ会那ゾ可ケンヤレ軽ンズ

明年各ミ相ヒ望メバ　俯二‐仰セン今古ノ情ニ一

（注）水調…中国古典詩歌の曲調名。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（Ⅰ）　傍線部１「明月不解老　良辰難合幷」の二句の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア…明月の光は衰えないので、なかなか会えぬ者同士を一堂にあつめられる。
イ…明月は老いの悲しみを知らず、中秋の夜を遠くの友と一緒に楽しめない。
ウ…明月は雲に隠されぬままで沈んだので、千載一遇の良夜を満喫できた。
エ…明月が知らぬ老衰ゆえに、人は良夜とは縁遠いままだ。
オ…明月の美を理解しない老人とは、中秋の楽しみを分かち合えない。

（Ⅱ）　傍線部２の二句は「かつて同席していた仲間は、水に流れる浮草のようにばらばらになってしまっていた」という意味である。この二句の書き下し文として、最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア…回頭坐に上る人、聚り散ずる流るる如き萍
イ…頭を坐上の人に回せば、聚り散じて萍の如く流る
ウ…頭坐の上人を回せば、聚散流るる如く萍いたり
エ…回らす頭坐上人、聚散して如くこと流萍
オ…頭を回せば坐上の人、聚散すること流萍の如し

（Ⅲ）　傍線部３の「此宵」とは、陰暦の何月何日のことを指すか。最も適切な月日を楷書の漢字で記せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　問題文乙（漢詩。本設問では省略）の「銜レ命還レ国作」と題する詩は、問題文甲（古文。本設問では全文は省略。該当箇所あたりは以下の『　』。『もろこしの言葉知りて、しかも才学すぐれたる阿倍のなにがし、釈空海などいへる人こそ…』（第四講の古文より））の二重傍線部「阿倍のなにがし」の詠作として収載される。その人物は誰か。その日本名の名前を漢字で記せ。〈政治経済〉

問三「更無一事到中心」を「さらにいちじのちゅうしんにいたるなし」と訓読する場合、左記の白文に最も適当な返り点を記入せよ。ただし送り仮名は書かないこと。〈商〉

更　無　一　事　到　中　心

問四「君可更作数曲」は、「もう何曲か弾いてください」という意味である。この意味に合うよう、左記の白文に返り点をつけよ（送り仮名はつけないこと）。〈文〉

君　可　更　作　数　曲

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二　次の甲を読んで、あとの問いに答えよ。　〈政治経済〉

甲

〔次の文章は、『列子』「楊朱」篇の一節である。文意を鮮明にするため、一部省略した字句がある。なお、傍線部・空欄および問題に関連する箇所の一部の送り仮名、返り点は省いてある。〕

宋国ニ有ニリ田夫一。常ニ衣(き)テ二縕黂一ヲ、僅ニ以テ過(す)レ冬ヲ。曁(およ)ンデレ春ニ東作シ、自ラ曝(さら)ス二於 A 一ニ。不レ知ラ三天下之有ルヲ二広廈隩室、緜纊狐狢一。顧ミテ謂ヒテ二其ノ妻ニ一曰ク、「負レフ日ヲ之暄(あたたか)ナルハ、人莫シ二知ル者一。以テ献ゼン二吾ガ君ニ一。<u>将有重賞</u>(B)」。里之富室告ゲテレ之ニ曰ク、「昔人ニ有リ下美(うま)シトスル二芹子ヲ一者上。対シテ二郷豪ニ一<u>称</u>(C)レ之。郷豪取リテ而嘗(な)ムルニレ之ヲ、螫(さ)シ二於 D 一、惨(いた)ム二於腹ヲ一。衆哂(わら)フレ之ヲ。其ノ人大イニ慙(は)ヂタリ。<u>子</u>(E)此ノ類也。」

（注）「縕黂」…くず麻などを入れて作った着物。
「広廈隩室」…大きな家と暖かい部屋。
「緜纊狐狢」…綿と毛皮。
「芹子」…せり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　空欄［A］および空欄［D］に入る最も適当な語を、次のイ～ホの中から一つずつ選べ。

A　イ　水　　ロ　風　　ハ　火　　ニ　雨　　ホ　日

D　イ　耳　　ロ　指　　ハ　口　　ニ　首　　ホ　掌

問二　傍線部B「将有重賞」をひらがなで書き下した文として最も適当なものを、次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　もちひてしやうをおもんずるあり。
ロ　もつてぢゆうしやうあらんとす。
ハ　ひきゐてぢゆうしやうあらんとす。
ニ　まさにぢゆうしやうあらんとす。
ホ　しやうにしやうをおもんずるあり。

問三　傍線部C「称」はどのような意味か。その意味を表す漢字二字の語を、甲の文中にある漢字一字を「称」の前か後に加えて作り、楷書で記せ。

問四　傍線部E「子」は誰を指すか。次のイ～への中から一つ選べ。

イ　田夫　　ロ　田夫の妻　　ハ　吾が君　　ニ　富室　　ホ　郷豪　　へ　衆

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三　次の文章は『栄華物語』の一節で、中納言藤原長家が妻を喪(うしな)い嘆き悲しむ場面である。読んで、あとの**問**に答えよ。

〈人間科学〉

やうやう日ごろになるままに、中納言殿、あはれに恋しく悲しとも世の常におぼされて、文集の文をおぼしあはせらる。李夫人の有様もかやうにこそはとおぼされて、「灯火を背け、壁を隔てて語らふことを得ず。いづこぞしばらく来(きた)りて、早くあひ見ることを目(もく)せん。心をいたすこと、一人武皇帝(ぶくわうてい)のみにあらず、古(いにしへ)より今に至るまで、また多くかくのごとし」と、おぼしつづけて、…(以下略)。

問　次の漢文は、問題文中に言及される「文集の文」の典拠となる文章である。この漢文を読んで、あとの（1）～（3）の問いに答えよ（設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。

及(ンデ)二李夫人卒(しゆつスルニ)一、上(しやう)以(テ)二后礼(ヲ)一葬(ル)レ<u>焉(ヲ)</u>[1]。上思二-念(シテ)李夫人(ヲ)一不(ルニ)レ已(やマ)、方士少翁(せうをう)言(フ)能(ク)

致(スト)二其(ノ)神(たましひヲ)一。乃(すなはチ)夜(ニ)張(リ)二灯燭(ヲ)一設(ケテ)二帷帳(ゐちやうヲ)一陳(つらネ)二酒肉(ヲ)一、而(シテ)令(シム)下上(ヲシテ)居(リテ)二他帳(ニ)一、遥(カニ)望二-見(セ)中好女(かうぢよノ)

如(キ)二李夫人(ノ)一之貌(ばうノモノ)、還(マタ)幄(とばりニ)坐(シテ)而歩(クヲ)上。又<u>不得就視</u>[2]。上愈(いよいよ)益(ますます)相思(ヒ)悲感(シ)、令(ム)三

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

楽府ノ諸音家ヲシテ絃二歌セ之ヲ一。上又自（みずか）ラ為（ため）ニ作レリテ賦（ふ）ヲ、以テ傷（しやう）二悼（たう）ス夫人ヲ一。

（班固『漢書』より）

（注）上……武皇帝をさす。
后礼……后（きさき）としての扱いでとり行う儀礼。
方士……宮廷に仕えている呪術師。
少翁……方士の名。
還幄坐而歩……「くりかえし帳の中で座ったり立って歩いたりする」の意。
楽府……宮中に設けられた音楽をつかさどる役所。

（1）傍線部1「焉」に最も近い意味をもつ文字はどれか。次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　之　　ロ　悪　　ハ　終　　ニ　乎　　ホ　故

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（2）　傍線部２「不 得 就 視」の解釈として最も適切なものを、次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　長くは見張れなかった。
ロ　たちまち消えてしまった。
ハ　見ないわけにはいかなかった。
ニ　近くで見ることができなかった。
ホ　正式に面会することができなかった。

（3）　漢文の内容に合うものを、次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　李夫人は方士を介して武皇帝との再会を画策したが、そのまえに亡くなってしまった。
ロ　武皇帝は方士の術を頼って李夫人の霊に会おうと試みたが、不本意な結果に終わった。
ハ　武皇帝は李夫人と会うことはできたが、灯火や壁に隔てられて言葉を交わせなかった。
ニ　方士は李夫人のまわりを食物やとばりで囲み、武皇帝と話ができないように仕組んだ。
ホ　李夫人は方士を介して武皇帝の霊魂と面会したが、悲痛な心のうちは明かせなかった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四　次の文を読んで、後の**問い**に答えよ。なお、設問の都合上、返り点、送り仮名を省いた箇所がある。〈教育〉

注①隆徳府屯留県王諸、字宣叔、少習文、応進士挙。以家貧訓幼学為業、屢取郷薦。而於注②省試輒不利。毎赴省試、必夢胡僧。姿状雄偉、謂曰、「君此行徒労耳。君骨相雖主有才、而不応得禄位。寿可過耳順。外是、非余所知也」。年五十余、又将赴省試、夢前僧、相賀曰、「君是挙必登第無疑矣」。夢中詰之曰、「[1]師向語我不当得禄位。今乃云登第、何也」。僧曰、「以君教導童子、用心篤至、[2]不負其父母所託、為有陰徳、故天益君注③算而報君以禄位」。因引至一官府、指庭下所陳古楽器曰、「[3]君姑記之、異時当自悟也」。厥後亦数有夢、但其僧不復見、而所陳楽器如初。時注④蜀公方献新楽、詔於注⑤延和殿注⑥按試。詰意

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

廷試[注⑦]必(ズ)問(フ)レ楽(ヲ)、[4]凡古今楽事、無二不レ経レ意者一。逮(ビ)二試日(ニ)一、所(ノ)レ得(ル)賦題(ハ)、乃(チ)「楽調四時和(ス)」也。是(ノ)歳、始(メテ)預(リ)二正奏名(ニ)一、遂(ニ)於(イテ)二馬涓榜下[注⑧](ニ)一賜(ハル)レ第(ヲ)。歴官数任(ニシテ)、以(テ)二奉議郎(ヲ)一致仕(シ)、年七十有七(ニシテ)、卒(ス)二於家(ニ)一。潞[注⑨]人能(ク)言(フ)二此(ノ)事(ヲ)一者甚(ダ)多(ク)、因(リテ)為(ニ)記(ス)レ之(ヲ)。

（朱弁『曲洧(きょくい)旧聞』より）

注
① 隆徳府屯留県…今の山西省屯留県。
② 省試…都で行われる科挙の最終試験。
③ 算…ここでは、寿命の意。
④ 蜀公…范鎮のこと。
⑤ 延和殿…皇宮のなかにある宮殿の一つ。
⑥ 按試…演奏させて試聴すること。
⑦ 廷試…省試に同じ。
⑧ 馬涓榜下…馬涓(ばけん)（人名）が主席合格した試験、の意。
⑨ 潞(ろ)…隆徳府の別名。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部1「師向語我不当得禄位」は、「シサキニワレマサニロクヰヲウベカラズトカタレリ」と読み下す。この読み下し文になるように、左記の白文に返り点を付けよ。ただし、送り仮名は付けないこと。

師向語我不当得禄位

問二　傍線部2「不負其父母所託」の意味として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　童子たちの両親の大きな期待を裏切ることがなかった。
イ　童子たちの両親があれこれ口出しするのに屈しなかった。
ウ　童子たちが両親を背負っていけるだけの実力をつけさせた。
エ　童子たちに両親の期待に沿うよう教育することを忘れなかった。
オ　童子たちに両親の重い期待に負けない精神力を身につけさせた。

問三　傍線部3「君姑記之、異時当自悟也」の訳として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア　君がひとたびこのことを記録したならば、後世の人々はきっと君のことを深く理解するに違いない。
イ　君はひとまずこのことを覚えておきなさい。将来のいつか、その意味することをはっと悟るであろう。
ウ　君がたとえこのことを記録したとしても、時代が違えば意味がなくなることを、きっと悟るであろう。
エ　君は必ずやこのことを記憶にとどめなさい。後でよくよく考えて、その真意を悟るべく精進しなさい。
オ　君の姑(しゅうとめ)はこのことをよく覚えている。次に不思議なことが起きた時に、君自身がそれを思い知るだろう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部４「凡古今楽事、無不経意者」の意味として最も適切なものを、次のア〜オの中から一つ選べ。

ア　おおよそ古今の娯楽に関わる事柄を、彼はすべて調べて把握した。
イ　おおよそ古今の楽しして成功できる術について、彼はすべて知りつくした。
ウ　おおよそ古今の音楽すべてについて、彼は細大もらさず理解し演奏してみた。
エ　おおよそ古今の音楽に関わる問題で、彼が注意して考えないものは何一つなかった。
オ　おおよそ古今のすべての楽しい遊興について、彼はいつも想像をふくらませては楽しんだ。

問五　この本文の内容に**合致しないもの**を、次のア〜オの中から一つ選べ。

ア　胡僧の夢のお告げによって、王諸は何度も落第した科挙の試験に合格し、役人になれた。
イ　王諸はとても信心深かったので、胡僧が夢にしばしば現れ、たくさんの有益な助言を与えた。
ウ　胡僧は夢の中で王諸をとある役所に連れて行き、そこである光景を見せて、科挙の試験問題を暗示した。
エ　王諸が熱心に児童に勉強を教えたため、天はその真摯な姿勢に感じ入り、彼の運勢をよりよいものに変えた。
オ　王諸の家は貧しく、もっぱら受験勉強に勤しむゆとりがなかったため、児童に勉強を教えることで生計を立てていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

五　次の文章を読んで、あとの問いに答えよ（返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。〈文〉

先儒嘗謂、孔子之言性相近也、習相遠也、雖有相近之説、而不言其善悪。自孟子始有性善之説。孟子既以為善、故荀卿以為悪。善悪［A］已言之矣。故揚雄以為善悪混。善悪混揚雄既言之矣。故韓愈以為上中下三等。起諸子紛紛之論者、蓋自孟軻啓之。是説何其浅也。君子之語道、惟其是而已。B<u style="text-decoration-style:dotted">豈宜求異而自立其説哉。</u>殊不知、孟子性善之説、蓋本於易之継之者善、成之者性之説。真不易之論也。荀卿之所謂悪者、是以情為［C］也。揚雄之所謂善悪混者、是以習為性也。韓愈之所謂上中下三等、是以才為性也。皆不明其本。明其本者、惟孟子性善之説為至当。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（『東園叢説』による）

注　先儒…先代の儒者。
性相近也、習相遠也…『論語』の言葉
荀卿…荀子。
揚雄…前漢末の人。
韓愈…唐の人。
孟軻…孟子。
何其〜也…なんと〜であろうか。
継之者善、成之者性…儒教経典の一つ『易経』の言葉。

問一　空欄［A］に入る語として最も適当なものを次の中から選べ。

イ　孟荀　ロ　孟子　ハ　荀子　ニ　孔子　ホ　孔孟　ヘ　孔荀

問二　傍線部B「豈宜求異而自立其説哉。」の返り点として最も適当なものを次の中から選べ。

イ　豈宜下求二異而自一立中其説上哉。
ロ　豈宜下求ㇾ異而自上ㇾ立二其説一哉。
ハ　豈宜ㇾ求三異而自二立ㇾ其説一哉。
ニ　豈宜下求ㇾ異二而自立ㇾ其説上哉。
ホ　豈宜二求異一而自ㇾ立二其説一哉。
ヘ　豈宜三求ㇾ異而自立二其説一哉。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　この文章からわかる筆者の意見に合致するものを次の中から一つ選べ。

イ　『易経』以外に真理はないのであり、その根源にあるものこそ性善説である。
ロ　人はどうしても悪いことをするので、性善説に則った教育をする必要がある。
ハ　孔子に始まる儒家思想は相当に完成したものなので、やはり『論語』を出発点とすべきである。
ニ　先儒が説くように揚雄や韓愈の説にも採るべきところがあるので広く学ぶべきである。
ホ　先儒の言うとおり性善こそ人間の本性であり、他の説はそれを展開したものにすぎない。
ヘ　儒家思想において人の性の善悪をさまざまに論じるのは、本質的なことではない。

問四　空欄［C］に入る語として最も適当な一字を本文中から選び、記せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　復習問題

① 「九陌の塵」は、都の喧噪や都市の生活を象徴する語である。都の生活をテーマに詠じた次の南宋・陸游の漢詩を読み、あとの問に答えよ。

世味年来薄キコト似タリレ紗ニ（注1）
誰令三騎レ馬客二京華一
小楼一夜聴キ二春雨ヲ一
深巷明朝売ル二杏花ヲ一
矮紙（注2）斜行閑カニ作（な）シレ草ヲ（注3）
晴窓細乳（注4）戯レニ分スレ茶ヲ（注5）
素衣莫起風塵歎
猶ホ及ビテ二清明ニ一（注6）可シレ到ルレ家ニ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（注1）紗…うすぎぬ。
（注2）矮紙…小さな紙切れ。
（注3）作草…草書体の字を書く。
（注4）細乳…茶をたてる時にできる細かい泡沫のこと。
（注5）分茶…茶をたてること。
（注6）清明…晩春の節句。郊外の山野に出かけたり、墓参りをする日。

（Ⅰ）傍線部は、ある古人が「白い衣服が都会の土ぼこりで真っ黒になってしまった」と嘆いた故事を踏まえている。この句の書き下し文として、最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

イ　素衣　風に起こる塵を歎くこと莫かれ
ロ　素衣　起こる莫く　風塵に歎く
ハ　素衣　風塵に起くるを歎くこと莫し
ニ　素衣　莫として風塵起こるを歎く
ホ　素衣　風塵の歎きを起こすこと莫かれ

（Ⅱ）この詩の詩型を、次の中から選べ。

イ　五言絶句　　ロ　七言絶句　　ハ　五言律詩　　ニ　七言律詩　　ホ　七言古詩

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

② 次に示すのは、『全唐詩』所載の「銜レ命還レ国作」と題する詩（五言排律）である。これを読んで、あとの問に答えよ（なお、一部の送り仮名、返り点は省いてある）。

銜（ふく）ミテレ命ヲ還レ国作

銜（ふく）ミテレ命ヲ将レ辞レ国
非才忝（かたじけな）クス二侍臣ヲ一
天中恋ヒ二明主ヲ一
海外憶フ二慈 X 一
伏奏シテ違（さ）リ二金闕ヲ一
騑驂去ル二玉津ヲ一
蓬莱郷路遠ク
若木故園ノ隣
西望懐フノレ恩ヲ日
東帰感ズルレ義ヲ辰

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

平生一宝剣
留メテ贈ル結レ交人ニ

（注）「若木」…日の没するところに生えている木の名。

問　空欄［X］に入る最も適当な語を、次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　悲　　ロ　母　　ハ　父　　ニ　愛　　ホ　親

③　次の文章は『浜松中納言物語』の一節である。中納言は亡き父が唐土の皇子に転生していることを知って、唐土に渡った。これを読んで、後の**問**に答えよ。

〈中略〉若き女房七、八人ばかり、天降りけむ乙女の姿かくやと見えて、菊の花もてあそびつつ、「蘭蕙苑（らんくゑいゑん）の嵐の」と若やかなる声合はせて誦（ず）じたる、めづらかに聞こゆ。御簾のうちなる人々も、「この花開けて後」と口ずさび誦ずるなり。…（以下略）。

問　二重傍線部「この花開けて後」は『和漢朗詠集』からの引用であるが、元々、唐の漢詩人元稹が作った、次の漢詩をふまえている。この漢詩を読んで、後の（1）・（2）の問いに答えよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

［Y］繞（めぐ）リテレ舎（いへ）ヲ似タリ二陶家（注）一ニ
遍ク繞レバ二籬（注）辺一日漸ク斜（かたぶ）ク
不是花中偏愛菊
此花開尽更無花

（注）陶家…陶淵明の家
　　　籬辺…垣根のあたり

（1）空欄［Y］に入る語として、最も適当なものを次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　春宵　　ロ　夏虫　　ハ　夏花　　ニ　秋空　　ホ　秋叢

（2）傍線部の白文の意味として、最も適当なものを次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　この花ほど美しい花は、他には存在しないということ。
ロ　この花が咲き終われば、当面咲く花がないということ。
ハ　この花の咲く時間は短いので、大切に見なければならないということ。
ニ　この花が一番好きなので、愛する人もその前では色あせるということ。
ホ　この花を好きとはいえないのは、同じ時期に咲く花がないためだということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「乃微服游於康衢」の読み下しとして、正しいものを次の中から一つ選べ。

イ　乃れ微かに康衢にて服游す
ロ　乃微服にて康衢を游ぶ
ハ　乃ち微服して康衢に游ぶ
ニ　乃れ微して服游に衢を康す
ホ　乃ち微かに康衢を服游す

⑤「尭」と並び称される名君を、次の中から一つ選べ。

イ　明　　ロ　蘇武　　ハ　舜　　ニ　呉　　ホ　孔明

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第一講】

〈模範解答〉

問一 ニ　**問二** 2ハ　5ニ　9ハ　**問三** ホ　**問四** ハ　**問五** イ

問六 日本　**問七** ホ　**問八** イ　**問九** ホ

〈現代語訳〉

后がいらっしゃるのだと（思って）、（中納言は）他のことは頭になく一心に見ると、（后の）お年は二十歳ぐらいでいらっしゃるだろうかと思われて、お顔の作りは、細面でもなく、ふくよかでもなく、ちょうどよいぐらいのお顔の、中ほどが少し盛り上がっている感じがして、お顔の色の白さは、（あの色白だったという）班婕妤といえども、この方よりはまさっていなかっただろうと感じられ、（その上、）こぼれるばかりの魅力が、たいそう照り映えるように辺りに漂い立って、眉が誰よりも気高いと（中納言は）御覧になるが、唇は朱色の顔料を塗っているように鮮やかで、少しも曲がっている所がなく、周囲にまで照り映えて、髪を結い上げ端正な御様子で、おっとりと物思いにふけるように外に視線を向けては琴を弾いていらっしゃる。この国でこんな美しい場面に出会うのかと、（中納言は）驚き呆れるほどに感じられる。

日本の女性は、髪がそのまま下に垂れ、額髪も縒って前にかけ垂らしなどしているのが、我が国向きに、親しみやすくしっとり落ち着いていることだと、思い出すにつけて、（こちらでは）きちんとしていて、簪で髪を結い上げられているのも、（后の）人柄が気品あるからであろうか、この方こそ申し分なく、とりわけ美しい姿だよと見るにつけ、琴の音色までがこの世に知らぬほどすぐれて聞こえるときに、若い女房七、八人ほどが、天下ったという天女の姿はこうであったかと見受けられて、菊の花を手でもてあそびながら、「蘭蕙苑の嵐の」と若々しい声の調子を合わせて（詩を）吟じているのが、新鮮に聞こえる。御簾の内にいる女房たちも、「この花を開けて後」と口ずさんで吟じるのである。特に（唐土の）男性は和歌を詠むようだが、女性は詠むことができないのか、花を見ても漢詩を吟じ合っているなあと、（事実を）知りたくなったのに、后は、御簾を下ろして中へ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

お入りになってしまった。（中納言は）物足りなく中途半端で、半分欠けている月を見るような気持ちがするので、我慢できず花の咲いている所へ歩み出たが、それを（女房たちが）ひどく呆れて驚いている様子はない。少人数で、半分隠れるように座っている（女房の）所に、（中納言が）花を手に取ってお立ち寄りになって、

　ふるさとを…＝故国〔＝日本〕を恋しく思うせつない私の心を忘れるのは、こちらで美しい花ばかりでなく美しい皆さんを見てしまったこの夕べであるのだなあ。

と、試しに（和歌を）詠みかけてみると、（女房が）団扇を差し出して、そのまま持って（花を）受け取る様子は、我が国の女性と違わない。

　枯れでさは…＝花が枯れないで、そうおっしゃる通りいつまでも照り映えて美しく咲いていてほしいものです。故国を恋しがる人がいませんように。

と応答する声には、（唐土の女性も和歌を）詠まないのではなかったよと、興味深くお感じになる。

　皇子がお出ましになったので、（中納言は）いずまいを正しなさった。「気分が晴れ晴れとする夕べだ」とおっしゃって、御琴など楽器を取り出して（中納言に）お与えになることだよ。先ほど見た（后の）心に浮かぶお顔のすばらしさは、名残の薫物の匂いまで、自分の体にしみ込んでしまう気がして、（后の弾いた）琴の音色の美しさまでもが耳に残っているようで、（中納言は、自分が）どう弾いたらよいかわからない。后も御簾の近くで、（中納言を）じっと御覧になるにつけて、万事に申し分なく抜きん出た人だなあ、この人が（日本へ）帰ってしまった後には、お目にかかれなくなってしまうのは悲しいことだと、人知れず涙が落ちるようにお感じになった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈重要単語〉　※「敬語」の「重要単語」は、文法講座で既出のため、省いています（第二講以降も同様）。

○おぼゆ【覚ゆ】…〔自動詞〕①**自然に思われる**。②思い出される。③**似る**。④（他人から）思われる。
〔他動詞〕①思い浮かべる。②記憶する。③思い出して語る。

○あいぎゃう【愛敬】…①**温和でやさしく魅力的なこと**。②顔かたちがやさしくかわいらしいこと。

○にほひ【匂ひ】…①**色が美しく映えること**。②かおり。③威光。
④染め色の色目で、上から下へしだいに薄くぼかしていくようにしたもの。

○うるはし【麗し・美し・愛し】…①りっぱだ。美しい。②**きちんとしている**。端正だ。③格式ばっている。
④親しい。⑤由緒正しい。

○あさまし…①**驚きあきれるばかりだ**。②興ざめだ。③話にならない。④ひどい。⑤品性がいやしい。

○なつかし【懐かし】…①**心がひかれる**。**慕わしい**。②**親しみやすい**。③昔が思い出されてなつかしい。

○なまめく【艶く】…①若々しく美しい。②優美である。③もの静かで落ち着いている。④色っぽくふるまう。

○ふみ【文】…①書物。②**手紙**。③**学問**（特に**漢学**）。④**漢詩**。

○なかなかなり【中中なり】…①**中途半端だ**。②**かえって**。

○けしき【気色】…①**様子**。②趣。③**態度**。④**意向**。⑤**機嫌**。

○あかず【飽かず】…①**物足りなく**。**名残惜しく**。②飽きないで。

○つきづきし【付き付きし】…**似つかわしい**。**ふさわしい**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第二講】

〈模範解答〉

問一　エ　**問二**　ウ　**問三**　A ウ　B オ　**問四**　イ　**問五**　ア

問六　な　**問七**　オ

〈現代語訳〉

こうして月日もあっけなく過ぎて、春にもなった。世の中も落ち着いた様子なので、和歌所の人々が、少しばかり参り合わせなさっていたので、「今頃はもう世間の桜の花も、きっと盛りを過ぎているだろう」と（いう話になり）、「内裏の桜の花を、散らない前に（見ておこう）」と（いうことで）、そのまま連れ立って、牛車二台に乗り込んで参りました。（内裏では、私たちが行く）以前から（花見のために）集まっていた僧や、あるいは趣深い様子をしている女房も、おおぜいあちこち歩きまわっている。（この僧や女房たちは）この（和歌所の）人々（が来た）とわかって、どうして気持ちの準備をしないことがあろうか（いや、皆こちらを気にしている）。うなずき合ったりささやき合ったりして、（それぞれ自作の）歌々をあちらこちらから持って集まって来る。（私たちは紫宸殿の南の）階段のあたりに丸い形に座って、連歌などをしまして、引き続きそれぞれ歌を詠む。桜の花を一枝折り取って、歌を添える。

中将定家が詠みなさった（歌は）、

年を経て…＝幾年も天皇のお出ましに慣れ親しんだ桜の花よ、私も（近衛司として）そのお出ましにお仕えして立ち慣れた花の蔭であるが、（このまま昇進もせずに）年老いてゆく私のことを、気の毒に思ってくれるか。

（私の）兄に法橋最栄（がいて、その最栄）が、誘われて連れられて来ていました（その最栄が詠んだ歌は）、

梢には…＝内裏の桜の梢にはまだ花がたくさん咲いている。（花を吹き散らす）風も（この内裏の桜のことは）いいかげんには思っていなかったのだなあ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「これら（の歌）は良い」などと、その席の人々が口々に申していたので、特に書き記すのです。

そうして帰ろうとする時に、女房が（私たちに）近寄って、「桜の花を一枝折り取って下さい。（私のような）知らない人（が折り取ること）は内裏の番人が咎めるのです」と申すのは、（それに対して）中原宗安が詠みかけたのは、

　　折れと言はば…＝（あなたが桜の花の枝を）折り取れと言うのなら、とても恐れ多い（ことなのでそうしてあげてもよいけれど、それよりも）飽きることのない桜の花の匂いを袖に染み込ませて行きなさいよ。

（女房からの）返歌もありましたが、忘れてしまったのは残念なことよ。旧暦三月の十日過ぎの月が明るく照り出して、（私たちは）帰ります。「立ち去りがたい」と誰も彼も思っているので、恨みがましいくらいに、桜の花は散り落ちる。月花門のそばで、（一行の一人が）笙の笛を吹き鳴らしたので、（私は）横笛を取り出して調子を合わせて吹く。少将雅経が篳篥を吹き添える。（その音色に合わせて）歌を歌って、建春門から出て、待賢門から各自それぞれに名残を惜しんで帰りました。

このように（私たちが）花見に連れだって参ったことを（後鳥羽院は）お聞きになって、（私が）夜が更ける頃に帰参したところ、（院は私を）お呼び寄せになって、「どんな人々が、心ひかれる歌を詠んでいたのか」などと、お尋ねになる。（私は）この中将定家が「みゆきに慣れし」と詠んでいた歌のことをお話し申し上げる。（院は）「誘われなかったのは、残念なことだ」とおっしゃって、お笑いになる。「うらやましいことだ。明日（内裏へ）行って、（桜の花を）見よう」とおっしゃるので、そのように（院のお花見のお供として）参上するのにふさわしい身分の人々に、吉報を知らせに（使者を）行かせる。

翌日の午前十二時頃、院はお出ましになる。（このお出ましは、院が）内々におっしゃったことであるが、あちらこちらから、馬や牛車が数多く行き来するのは、（院のお出ましのことを聞き伝えた人々が）次々に参上するのであろう。なるほど、「軽軒九陌の塵に馳す〔＝都の大路を、砂ぼこりを上げて軽快に車が走る〕」と（いう詩句を）思い出す。（院のお車は）待賢門から（内裏へ）お入りになる。（院が、花が散ってしまっていないかと）気が気ではなさそうにお思いになっているので、（内裏の中の）置路も遠い感じがして、（供奉の人々の）靴音もせわしい感じである。院が（内裏に）お出ましになるのを見て、言うまでもなく女房たちがいっせいに慌てて逃げていくのを、（院が）「引き止めよ」とおっしゃるので、（私が）参って（女房に）言葉をかける。「花（のように美しい方々）であるならば、しばらく立ち去らないでおくれ、桜の木のもとを」、（こんなふうに私が）思いつくままに指図がましく申し上げたところ、（女房は）「（口のない花のように）黙っているのでは仕方がないだろうよ」と言っ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

て、山吹を持っていたのを（私に）下さった。
そうして（院は）桜の花の下に人々をそば近くお呼び寄せになって、「（桜の花は）すっかり残り少なくなってしまったのだなあ」とおっしゃって、硯や紙などをお取り寄せになる。それぞれ歌をお詠み申し上げよとのことをお命じになると、人々に紙々を分けてお与えになる。桜の花を一枝折って、紙をのせる台にして、それぞれ歌を添える。その折の（院の）お詠みになった歌は、

天つ風…＝空を吹く風よ、しばらく吹いて閉ざしてくれ。この桜の花が雪のように入り乱れて散る雲の中の帰り道を。

お帰りになった時に、散っている花を硯の蓋にかき集めて、摂政殿へ差し上げなさったのに添えなさった（歌は）、

今日だにも…＝（明日にならなくても）今日でさえも庭（の地面の上）を花盛りとでもいうように散る桜の花を、（雪ではないので）消えずにあるとしても、雪なのかとでも思って見ておくれ。

（院が私に）この花を持たせて、（摂政殿のいる）三条坊門に行かせなさったので、（私は）参上する。（三条坊門では）「たった今、（摂政殿が）院のもとへ参上なさる」ということで、御前駆や御随身が、庭に立ち並んでいましたが、（私はその人々を）かき分けて参上してこのことを仲資朝臣を介して（摂政殿に）申し上げましたところ、（摂政殿が）出ておいでになって、ご自身でお受け取りになる。（摂政殿から院への）ご返歌は、

誘はれぬ…＝花見に誘われなかった私のために消え残ったのだろうか。明日になる前の今日のこの花の白雪は。

と、聞きました。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔**重要単語**〕

○やがて…①**そのまま**。　②**すぐに**。

○みゆき【行幸】…**天皇のお出かけ**。

【御幸】…院・上皇・女院などのお出かけ。

○はらから…兄弟姉妹。

○ぐす【具す】…①備わる。　②**一緒に行く**。　③夫婦となる。

○あだ【徒】…①**浮気なさま**。　②はかないさま。　③むだなさま。

○かしこし【畏し・恐し】…①恐ろしい。　②**恐れ多い**。

【賢し】…①利口である。　②非常に。

○げに【実に】…①現実に。**なるほど**。　②**ほんとうに**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第三講】

〔模範解答〕

問一　中将様が（あなたに）申し上げなさるようなことを、浮舟様よ、あなたはお聞きになってください。
問二　ウ
問三　イ
問四　ア
問五　エ
問六　初め　例はか　終わり　にけり
問七　C　らむ　D　けむ
問八　ウ
問九　ア
問十　エ

〔現代語訳〕

月が照り出して趣深い頃に、昼間、手紙があった中将がいらっしゃった。（浮舟は）ああ嫌だ、これはどういうことか、と思われなさるので、奥（の部屋に）深く入りなさるのを、（少将の尼が）「それもあんまりでいらっしゃるなあ。（中将様があなたに寄せる）お気持ちのほども、ますますしみじみと感じられる時節であるようです。少しでも、（中将様があなたに）申し上げなさるようなことも（あなたは）お聞きになってください。（中将様の言葉を聞くだけで）深い仲になりそうなことのようにお思いになっているのは（ばかげたことです）」などと言うので、（浮舟は、少将の尼が中将を部屋に入れるのではないかと）とても不安なことに思われる。（浮舟が）いらっしゃらないということを（少将の尼は中将に）言うけれど、昼間の使者が、（尼君は

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

不在で浮舟が）お一方（で留守居をしている）などと尋ね聞いていたのであるにちがいない、（中将は）とても長々と言葉を尽くして恨み言を言って、「お声も聞かないことにしましょう。ただ、（私があなたの）近くで申し上げるようなことを、耳障りだとでも判断なさってください」と、あれこれ言いあぐねて、「とてもつらいこと。（こういう寂しい土地では）場所柄に応じて、（人の心も）ますますしみじみと感じられるものなのに。あんまりこんなふうであるのは（恨めしいことです）」などとなじっては、

「山里の…＝山里の秋の夜更けの深い情趣をも、物思いをしている人は身にしみて感じるものなのに。

おのずとお心も通ずるはずなのに」などと言うので、（少将の尼は）「尼君がいらっしゃらなくて、（あなたの代わりに返歌をして中将様のお気持ちを）紛らし申しあげることのできる人もいません、とても非常識なことだろう」と（浮舟を）責めるので、

うきものと…＝（自分でも）つらいものとは思いもしないで過ごしている私のことまで、物思いをしている人だとあなたはわかってしまうというのだなあ。

ことさら（返歌として）言うというのでもない（様子で浮舟が口にする）のを、（少将の尼が）聞いて（中将に）伝え申し上げると、（中将は）とてもしみじみと思って、「やはり、とにかく、少し（こちらへ）出て来てくださいと申し上げて連れて来ておくれ」と、ここにいる人々［＝少将の尼たち］をどうにもならないほど恨んで責めなさる。（少将の尼が）「不思議なほど、薄情に見えなさるよ」と言って、（奥の部屋に）入って見ると、（浮舟は）いつもはほんの少しでも立ち寄りなさらない老尼君のお部屋に入りなさっていた。（少将の尼が）あきれたことと思って、これこれ、と（中将に）申し上げると、（中将は）「こんな（寂しい）土地で物思いに沈みなさっているような心中がしみじみ気の毒なことと思われ、おおよその様子などからしても情を解するように見える人が、まったくあまりにも（人の情けを）解さない人よりも一段と（薄情に）あしらいなさるようなのは（理解に苦しみます）。それというのも（男に対して）なにか懲り懲りなさっているのか。やはり、どんなふうにこの世を恨んで、いつまで（そうして）いらっしゃるつもりの人なのか（聞かせてほしい）」などと事情を尋ねて、とても知りたそうにばかりお思いになっているけれど、（少将の尼も）詳しいことは、どうして話して聞かせることができようか、ただ、「（尼君が）お世話申しあげるべき人で、長年疎遠な様子で過ごしなさった人を、初瀬に参り合わせなさって、探し出し申しあげなさった」と言う。

姫君［＝浮舟］は、とても気味悪いとばかり聞いている老尼君の近くに顔を伏せて横たわって、眠ることもできない。宵の口から眠たがる老尼君は、何とも言えないほど騒々しいいびきをして、（その老尼君の）前にも、同じくらいの（年老いた）尼た

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ちが二人横たわって、負けじと一緒にいびきをかいている。（浮舟は）とても恐ろしく、今夜この人たちに食べられてしまうのだろうかと思うにつけても、惜しくはない我が身であるけれど、いつもの気の弱さは、丸木の一本橋を不安に思って戻って来たとかいう者のように、心細く感じられる。（浮舟は）こもきを、お供に連れていらっしゃったけれど、（こもきは）色気づいて、この滅多に見ることのない男〔＝中将〕がいかにも風流ぶって座りなさっている方へ戻って行ってしまった。（浮舟は、こもきのことを）もう戻るか、もう戻るかと待ちつづけなさっていたのに、（こもきは）とてもあてにならない頼み人だよ。

中将は、どう話しかけたらよいかわからずもてあまして帰ってしまったので、（少将の尼たちは）「とても情け知らずで、引っ込み思案でいらっしゃることだなあ。もったいない（美しい）お顔立ちなのに」などと悪く言って、みんな同じ所で寝た。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○うたてし…①嘆かわしい。気にくわない。②情けない。

○うしろめたし【後ろめたし】…①気がかりだ。**不安だ**。②気がとがめる。

○おのづから【自ら】…①自然と。②偶然。③もしも。

○わりなし【理なし】…①**道理にあわない**。無理である。②つらい。③しかたがない。
④殊のほかである。⑤すばらしい。

○あやし【怪し】…①**不思議だ**。②**粗末だ**。③**身分が低い**。

○つれなし…①**冷淡だ**。②さりげない。③平気だ。④もとのままだ。

○むつかし【難し】…①**不快である**。②わずらわしい。③気味が悪い。

○おどろおどろし…①**気味が悪い**。②**大げさである**。

○あたら【惜】…**もったいない**。せっかくの。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第四講】

〔模範解答〕

問一　A　ニ　C　ハ　G　ロ
問二　イ
問三　すくなかるべけれ
問四　ロ
問五　無分別
問六　ニ
問七　ハ

〔現代語訳〕

中国の漢詩と、この国の和歌は、奥深いことは変わりはないにちがいない。漢詩は作り易いけれど、和歌は詠むのが難しいと言っている人がいる。これはそういうことがあるにちがいない。和歌はこの国の言葉なので、こんなふうに詠んでは和歌ではないということは、詠んだ者も、また見る者もその感覚があるけれど、漢詩は中国の言葉なので、そこそこに作ってもだいたいわかる程度なので、その（作った）本人もよいと思い、見る人も上手だと誉めたてることから、和歌は詠むのが難しい、漢詩は作り易いというのだ。もし中国人が、この国の和歌を詠むことがあったら、和歌は詠み易いけれど、漢詩は作るのが難しいと言うにちがいない。漢詩は作り易いと言っているのは、漢詩を知らない人の発言、和歌のことを詠み易いと言っているのは、和歌を知らない人の発言であるにちがいない。どちらか一方が容易なことなのであろうか、（いや、どちらも奥深いことに変わりはない）。漢文を作ることについても、またこの（漢詩の）場合と同じだ。

この国に仮名というものがなかったならば、人々は漢字を自在に操ることができたはずなのにと言っている人がいる。これは

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

思いのほかの発言だろう。中国の漢字、インドの梵字、朝鮮の諺文、この国の仮名、そのほか韃靼、オランダの文字、すべてその国の言葉に対応し、誰が始めたということもなく、女子や、身分の低い者たちまでがこれを用いている。本当に自然の道理に発している。仮名というものがなかったらと言っているのは、その国々の言葉がなかったらと言っているのと同じであろう。

この国の漢詩を作り、漢文を書いている人は、その才学を見ると、中国の誰々、それそれなどといった人に、そこまで劣るまいと思う人はいくらでもいるけれど、言葉が違っているために、それだけで終わらせ、残念なことというべきだ。

中国の言葉を知らなくては、漢詩を作り漢文を書くことはできないだろうと、中国語を学んでいる人は必ずと言っているが、中国の言葉を知っている人の詩文を見ると、（中国語を知らない人の詩文と比べて）そこまで違っていることはないので（中国語の力は詩文を作るのに必須ではない）と、またある人が言っている、これはすべてその一方だけを知っている発言であるにちがいない。詩文は言葉の真髄であるものなのだから、言葉を知らなくて、どうして真髄を求められようか（いや、求めることはできない）。この国の言葉を知らない中国人が、和歌を詠むと言ったら、珍妙奇天烈で不審なことだと思うのであるはずだ。しかし詩文を上手に作れない中国人は、いくらでもいるのだから、中国語を知っているからといって、詩文を上手に作ることができるのでもない。真の詩文といったものは、中国の言葉を知って、しかも才学がすぐれていた阿倍の誰それ、釈空海などといった人は、恥をかくことがあまりないにちがいない。私は中国語を少々学んだけれど、漢詩を作り漢文を書くことは知らないので、私の（詩文の）拙劣なのを見て、中国語（の学習）をやめなさるなと、同志の人にはいつも話した。

およそあらゆる漢字は、訓読みはこの国の言葉であるけれど、音読みはもともと中国の発音である。しかし中国の発音に似ているものは非常に少ない。気候が違っているからであろうか、（中国では）橘は淮河を越えると変化して枳となるといったことについて、おかしなことだと言ったところ、この国でも密柑、九年母などといったものは、その樹をもっていって出羽に植えると、すべて枳殻となるという。近頃ある和尚の話によると、薩摩から産出する紅密柑というものは、色も美しく、味わいもすぐれているので、その種を取って植えたところ、間もなく芽が出たけれど、すべて柚となったと話した。中国音も数度の伝来を経過したなら、いつの間にかこの国の発音となるにちがいない。中国音や中国語会話を学ぶ人は、いつも中国人に習うよりほかはあるまい。黄檗宗の課誦はすべて中国音であるが、何を言っているのかと中国僧は首をかしげているという。これも数世代の後には、この国の発音となるにちがいない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

中国音で上から下へ順に直読し、文の意味が通じると（私が）言っていることを、疑わしいと思っている人がいたので、「なるほどそう思いなさるのであるにちがいない。しかし物事は慣れることです。私が十四歳だった時、中国人に命令なさる文書が、幕府から下るのですが、（語順など）漢字の用い方がちがっていたからでしょうか、中国人は何度も読みまして（理解できず）、訳者たちが集まり、書き直して（中国人に）見せましたと、商売をするということで長崎に通っていた稲某といった者が話したので、（私は）なるほどと思い、二十四歳だった時から、中国音を学んだ。最初は（自分とは）無縁なことを耳にしているかのように思われたけれど、年齢を二十あまり重ねて、あらかたこの国の物を読むのと同じように読めるようになり、身近な日常のことは、中国人と会話もできた。生まれつき聡明で、幼い時から学んでいる人は、私のように（習得が遅く）はあるまい。世間の逆さ言葉といったものは、初めは言うのが難しく、聞き取りにくいけれど、やがて当たり前になるのと同様に、また無分別・不了簡などといった、無の字や不の字を先に言うのは、この国の言葉ではないけれど、慣れるからこそ考えるまでもなく、耳にも入り、口にもする。中国音を学ぶのも、またそれと同じとご理解ください」と答えた。

（漢文を）上から下へ順に直読して文の意味が通じることは、みんなが上手にできることでもないので、日本中で一般に通用するわけにもいくまい。生まれつき（聡明かどうか）を見て教えるべきであろうよ。韓国語は非常に易しい。私は朝鮮へ行き、三年努力して、だいたい支障がないくらいに習得した。我が国と同じく述語が目的語より後にくるからである。

この国で（すぐれた）漢文を作るということで評判のある人が、経書の意義を解説して書いた書物を朝鮮人に見せたところ、「これを見ますと、経書の意義も理解し、また漢文を作る方法もわかり、本当に我々にはまねできないほど、尊い書物である」と言って、常に喜んで読んでいたが、ときどき言っていたのは、「この箇所は文字が余計で、この箇所は文字が足りなくて読みにくい。これは（訓読によって漢文の語順を）入れ替えて読むことをしたためであるにちがいない。玉にきずというべきだ。惜しむべきことである」と話した。また正徳元年に朝鮮通信使が来朝した時、四六文の書簡を朝鮮人に送った人がいたところ、（朝鮮通信使は）「この人はどのように学問をして、ここまですぐれた漢文を書いたのか」と喜びあっていた。これらは中国音を学んだのではないけれど、その才能がすぐれ、しかも学問を究めて、外国の人をも感心させるのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第五講】

〔模範解答〕

一

問一　（Ⅰ）イ　（Ⅱ）オ　（Ⅲ）八月十五日

〔訳〕

舒煥は汶水のほとりにいて、俗人との交わりを絶ち清らかに暮らしている
鄭僅は河北の地に向かって、小さな舟を連夜進めている
頓起は近くにいるが、鍵をかけた牢獄にいるかのごとく孤高である
趙杲卿は手紙を送って来てくれたが、（そこに書かれた）水調にはかすかな響きが感じられた
思いはつきないなあ、四人の心は、この千里を照らす月明りを共にしているのだと
明月は老いの悲しみを知らず、中秋の（良き）夜を遠くの友と一緒に楽しめない
ふり返って見るとかつて同席していた仲間は、水に流れる浮草のようにばらばらになってしまっていた
以前次のように聞いたことがある、この中秋の月は、どこであってもくもりと晴れとが同じであると
天が自ら定めたのであるから、この夜の出会いをどうして軽んじることができようか
来年五人が（月を）眺めるならば、今と昔の心に思いをやるであろう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二 仲麻呂
問三 更無㆔一事到㆓中心㆒
問四 君可㆔更作㆓数曲㆒

二

問一 A ホ　D ハ
問二 ニ
問三 称美
問四 イ

〔訳〕

宋の国に農夫がいた。（農夫は）いつもくず麻などを入れて作った着物を着て、なんとか（その粗末な着物で）冬の寒さを乗り切っていた。春になると農作業をし、体に太陽の光を浴びて暖かくなった。（農夫は）世の中に大きな家や暖かい部屋、綿入れや毛皮の着物が有ることを知らなかった。（そこで農夫は）その妻に向かって言った、「太陽の光を浴びた暖かさは、（私以外に）知っている者はいない。この暖かさを君主様に献上しよう。きっと沢山の褒美がいただけるだろう」と。（この話を耳にした）村の金持ちが農夫に忠告して言った、「その昔、芹を美味しいと思った人がいた。（その人は）土地の有力者に向かって芹は美味しいと称賛した。（そこで）村の有力者は芹を採って食べると、口はひりひりし、腹が痛くなった。人々はこの有力者を嘲笑した。（そして）その人は非常に恥じ入ったという。あなた〔＝農夫〕はその人と同類だ」と。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三

（1）イ
（2）ニ
（3）ロ

〔訳〕

李夫人が亡くなった時、武皇帝は后としての扱いでとり行う葬送を行った。武皇帝が李夫人を慕ってやまないので、方士の少翁が「李夫人の魂を呼び寄せることができる」と言った。そこで、夜、灯火を巡らし帳（とばり）を用意して酒や肉を並べて、そして武皇帝には別の帳の中にいてもらって、李夫人のような美女の面影が、くりかえし帳の中で座ったり立って歩いたりする様子を遠くから見られるようにした。（武皇帝は）近くで見ることはできなかった。武皇帝はこれまで以上にいっそう李夫人のことを思って悲しみに浸り、楽府の音楽家たちに命じて李夫人に関する（武皇帝が作った）詩を演奏し歌わせた。武皇帝はさらに自分で（李夫人のために）賦も作って、彼女を悼んだのだった。

四

問一　師向語二我不レ当レ得ニ禄位一
問二　ア
問三　イ
問四　エ
問五　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔訳〕

隆徳府の屯留県の王諲は、字を宣叔といい、若い頃から学問を習い、（科挙の科目の一つである）進士の試験を受験していた。家が貧しかったため童子を教えて生計を立てていたが、たびたび地方官からの推薦を受ける程であった。しかし省試では何度受けてもうまくいかなかった。（諲が）省試に赴く時、必ず胡僧が夢に出てきた。勇ましく偉大な姿の僧は（諲に）向かって、「君の今回の受験は無駄なだけだ。君の骨相には才能が出ているものの、禄位を得ることはきっとできないだろう。寿命は耳順〔＝六十歳〕を超える。これ以外、私にわかることはない」と言うのだった。五十歳を過ぎ、（諲が）また省試に赴こうとした時、以前の僧が夢に現れ、（諲に）祝意を表して、「君の今回の受験は必ず合格すること間違いない」と言う。夢の中で（諲は）僧をなじって言うことには「あなた様は以前に私は決して禄位を得られないとおっしゃいました。今回は意外にも合格するとおっしゃいます、一体どういうことでしょうか」と。僧は「君が深い心遣いをしながら童子たちを教え導き、その両親の（大きな）期待を裏切らなかったことは、陰徳〔＝人に知られない善行〕であり、それ故天が君の寿命を延ばし、禄位で君に報われるのだ」と言う。そこで（僧は諲を）とある役所に引っぱって行くと、庭に並べられた古楽器を指さして、「君はひとまずこのことを覚えておきなさい、将来のいつかその意味するところをはっと悟るであろう」と言った。その後も（諲は）同じ夢をたびたび見たが、僧は二度と現れず、並べられた楽器は最初に夢見たそのままであった。その頃、蜀公が新しい楽曲を献上したので、延和殿において試聴を行うとの詔が出された。王諲は（今回の試験では）必ず音楽が問われると考え、おおよそ古今の音楽に関わる問題で、注意して考えないものは何一つなかった。試験の当日、出された賦題は、なんと「楽調、四時和す」であった。この年、（諲は）はじめて正式に天子に名前が奏上されることとなり、馬涓が主席合格した試験において及第したのであった。（その後、諲は）いくつかの官職を歴任し、奉議郎の時に辞職して、七十七歳で、家で没した。潞の人々でこのことを語る者が大変多かったので、ここに記録しておく。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

五

問一　イ
問二　ヘ
問三　イ
問四　性

〔訳〕

先代の儒者がかつて、「孔子は、『人間の本性は誰しも似たり寄ったりだが、習慣や教養によって大きな違いが出てくる』と言ったが、似たり寄ったりだと唱えはしたものの、本性が善であるか悪であるかは言っていない。孟子に至って初めて本性は善であると唱えた。孟子が既に（本性は）善だと考えたので、荀子は悪だと考えた。善であるか悪であるかは孟子と荀子とが既に言っている。だから揚雄は善と悪とが入り交じっていると考えた。善と悪とが入り交じっていることは揚雄が既に言った。だから韓愈は上・中・下の三等級〔＝純粋に善・善にも悪にもなる・純粋に悪の三種類〕があると考えた。学者たちの（本性に関する）見解が入り乱れているのは、おそらく孟子から始まったのだ」と言ったことがある。この説はなんと浅薄であろうか。君子が物の道理について語る時は、ただ正しいことだけ（を考えるもの）だ。他人とは違った見方を探し求めて、自分の説を立てるはずがない。（先代の儒者には）孟子の本性は善だとする説は、おそらく『易経』の「（天から）受け継いだものが善、それを磨き上げるのが本性」という説に基づいていることが、全くわかっていない。（これは）本当に、永久不変の正論である。荀子が（本性は）悪だと言ったのは、感情を本性だと考えたものである。揚雄が善と悪とが入り交じっていると言ったのは、習慣を本性だと考えたものである。韓愈が上・中・下の三等級があると言ったのは、才能を本性だと考えたものである。いずれも根本のところを明らかにしていない。根本のところを明らかにしたものとしては、ただ孟子の本性は善だとする説だけが極めて適切である。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　解答解説

〔解説〕

①「つきづきし」は重要単語。「似つかわしい、ふさわしい」の意味。よって、正解はニ。

②「いと竹」の「いと」は弦楽器、「竹」は管楽器、「いと竹」で音楽のこと。よって、正解は「演奏技術」のホ。

③ Ⅰの三句目「忘れずは」の「忘れ」、四句目「恋ひむ涙の」の「恋ひ」、Ⅱの四句目「君に知られで」の「知ら」と「れ」。以上四つが未然形。よって、正解はホ。ちなみに、「忘れずは」の「ずは」は、打消の助動詞「ず」の連用形＋係助詞「は」である。

④「る・れ」の識別。設問はu段に付いているので、上からの一部。この場合は、下二段動詞「忘る」の連体形「忘るる」の一部。選択肢ニが同様に、上がu段で、下二段動詞「覚ゆ」の連体形「覚ゆる」の一部。よって、正解はニ。ちなみに、イとホは完了の助動詞「り」の連体形。ロは、過去の助動詞「けり」の連体形「ける」の一部。ハは、完了の助動詞「たり」の連体形「たる」の一部。

⑤「なむ」の識別。四段動詞「入る」の連用形に付いているので、強意＋推量の確述用法。よって、正解はニ。

〔解答〕

①　ニ　　②　ホ　　③　ホ　　④　ニ　　⑤　ニ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　解答解説

〔解説〕

① 『とはずがたり』は鎌倉後期の作品。『新古今和歌集』は鎌倉初期に成立。本来の設問では選択肢に『伊勢物語』もあり、正解を二つ選ばせる設問であった。

② 消去法を使ってでも確実に解けてほしい文学史。『落窪物語』は『源氏物語』よりも**前**に成立していることがポイント。選択肢ロの『狭衣物語』は『源氏物語』よりも**後**に成立した作品。『風姿花伝』は、室町時代の世阿弥（ぜあみ）の能楽論書。『無名草子』は、鎌倉前期の物語評論。よって、正解はイ。①同様、選択肢に『日本霊異記』もあり、正解を二つ選ばせる設問であった。

③ 「引き歌」は引用以外の部分が特に大事。この設問では、引用外の重要単語「あだ」がポイント。「あだ」は「浮気なさま」。よって、正解はハ。

④ 「具す」は重要単語。「一緒に行く、引きつれる」の意味。よって、正解はニ。

⑤ 「行幸」も重要単語。「帝・天皇のお出かけ」の意味。よって、正解はロ。

〔解答〕

①　ホ　②　イ　③　ハ　④　ニ　⑤　ロ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講　解答解説

〔解説〕

① 問題文の傍線部「なる」は、ラ変動詞「はべり」の連体形に付いているので、「断定」か「伝聞推定」かは文脈判断が必要なものであるが、こういう場合は焦って文脈判断する前に、先に選択肢を見てみよう。選択肢イ、ハは「断定」、ロは形容動詞「あはれなり」の一部、ニは四段動詞の「なる」、ホが「伝聞推定」から、文脈判断せずとも伝聞推定のホが正解だとわかる。選択肢を見ても消去法が使えない場合は文脈判断が必要になる。いかに早く正解を出すかがポイント。

② 「もったいない、惜しい」の意味は、古文単語では「あたらし」。重要単語である。よって、正解はホ。

③ 『日本往生極楽記』の成立時期は、本文と注釈をきちんと読めば九八二年頃（＝平安中期）だとわかる。『懐風藻』は奈良時代、『保元物語』と『宇治拾遺物語』は鎌倉時代、『古今和歌集』は九〇五年に成立。よって、正解はニ。ちなみに本来は、正解を二つ選ぶ問題で、もう一つ『源氏物語』の選択肢があった。一見知らない作品であっても、焦らず文章や注釈をきちんと読めば、このように解ける問題があるので、注釈をおろそかにしないこと。『三宝絵』の成立時期（九八四年）を万一知らなくても、消去法で解けたはずである（他の選択肢の成立時代は知っておくべき）。ホの『古今和歌集』とも、八〇年の年月が隔たっているので、「ほぼ同時期」からは外せるであろう。

〔解答〕

①　ホ　②　ホ　③　ニ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　解答解説

〔解説〕

① 源氏物語成立は平安中期。一〇〇〇年前後と覚えておくとよい。早稲田の文学史問題は、成立年度を絡めた問題が多い。大まかな流れをきちんとつかんでおくこと。

② 「も」は係助詞。係助詞は「ぞ・なむ・や・か・こそ」だけではなく、「は・も」もあることを忘れずに。よって、正解はハ。

③ 「いとけなし」「いはけなし」「いときなし」の意味は「幼い」。よって、正解はロ。

〔解答〕

① ロ　② ハ　③ ロ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　解答解説

〔解説〕

①（Ⅰ）七言詩のリズムは「2・2・3」なので、ロかホに絞る。ロの訳は「白い衣装が起こることは無く、風塵に嘆く」となり、意味不明。ホは「白い衣装が、風塵の（せいで黒く汚れてしまう）嘆きを起こすことがないように＝白い衣装が黒くなってしまうなどと嘆くことはない」という意味になる。よって、正解はホ。

（Ⅱ）八行は律詩。実際は選択肢ではなく、記述の問題であった。

② 押韻の問題。偶数句末の漢字は「臣・津・隣・辰・人」＝「～ｉｎ」の響き。よって、正解はホ。

③（1）二重傍線部の「この花」は、古文文章中の「菊」を指している。菊は九月＝秋の花（←古文常識でもあるが、「重陽の節句」は、九月九日に菊に長寿を祈る節句。陽（奇数）が重なる日で、奇数の中で一番大きな数字なので「重陽」と言われている）。ホの「叢」は、集まりはえる様子。ニの「空」は、おかしい。よって、正解はホ。

（2）「更無花」（さらに～なし＝まったく～ない）からイかロに絞る。「開尽」から「咲き終わる」。よって、正解はロ。

④「乃」の読みは「すなはち」なので、ハかホに絞る。「於」の直後は基本補語となり、送り仮名は「～ニ・ト・ヨリ（モ）」。ホは「康衢を」と目的語としている。よって、正解はハ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤　中国、古代の伝説上の帝王の尭と舜は、徳をもって天下を治めた理想的な帝王で、知っておくべき知識問題である。よって、正解はハ。

〔解答〕

①（Ⅰ）ホ　（Ⅱ）ニ　②ホ　③（1）ホ　（2）ロ　④ハ　⑤ハ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。